

# 熊本地震における 被災地支援の振り返り

平成28年10月25日

福岡市市民局コミュニティ推進部長  
下川 祥二

## < 甚大な被害のあった熊本地震 >

### ・・・広域支援が本格化するのに一週間かかった現実！

- ・被災の状況，被災地のニーズ把握，支援内容の確定，担当自治体の振り分け，など・・・

★基礎自治体による実行部隊連合で，  
広域支援が本格化するまでの

**「命をつなぐ1週間」  
をうめていく！**

発災からおよそ1週間の基礎自治体連合による支援と，  
その後の都道府県等の広域的な支援のスムーズな連携により，  
被災地へのすきまのない支援を実現！

# 1 福岡市が行った「自己完結型支援」

★「命をつなぐ1週間のすきまをうめる」  
ことが重要！

- ①基礎自治体を持つ消防・上下水道・ごみ処理の支援の**実行部隊を迅速**に派遣
- ②**ニーズに即応**したプッシュ型の支援
- ③**ラストワンマイル**までの自己完結型支援

・・・具体的には、

## ①実行部隊の迅速な派遣

★広域支援が本格化するまでのロスタイムをうめる！

・消防, 水道等実行部隊の派遣

(4月14日) (4月15日)

・情報収集班(3名)と避難所運営支援職員(101名)の派遣

(4月17日)

(4月19日)

・迅速なパッカー車の派遣と

(4月21日)

他の自治体車両との合流

(大きな部隊として一体的に活動)

## ②支援物資

★「プッシュ型」と「ニーズに即応したプッシュ型」のちがい

★被災地に一切の負担をかけず

最後のワンマイルまで！（自己完結型）

- ・トップ同士の密な連絡
- ・支援自治体のボランティアによる仕分け
- ・福岡市が開発した支援物資システムを活用し、  
派遣職員が避難所まで搬送
- ・NPO・ボランティアの力により、被災者まで届く支援  
(3万7千箱の支援物資のうち2万箱)

## 2 被災地支援のさらなる改善にむけて

★「**実行部隊を持つ基礎自治体**」が重要！

→ 消防・上下水道・ごみ処理の実行部隊  
をもつ基礎自治体の役割は大きい

→ 一定の規模・高い技術を持つ  
政令指定都市のリーダーシップが重要

# ★被災地に近い政令指定都市のリーダーシップと 都市間連携

○九州市長会に防災部会設置

- ・首長間のホットライン開設
  - ・平素からの役割分担
- 等

→「命をつなぐ1週間」を  
基礎自治体で支え合う仕組みをつくる。

**発災からおよそ1週間の基礎自治体連合による支援と、  
その後の都道府県等の広域的な支援の  
スムーズな連携により、  
被災地へのすきまのない支援を実現！**